



発行 宮崎県立高鍋高等学校 同窓会
宮崎県児湯郡高鍋町 大字北高鍋4262
TEL 0983・23・0005
FAX 0983・23・5096
URL http://www.narumiagaoka.jp/

同窓会育英会奨学金制度について

同窓会事務局長 猪股 司

この度同窓会では、本校卒業生を対象に育英会奨学金制度を実施することとなりました。この育英会奨学金制度は、文武両道を目指し、人物、学力共に優れた高鍋高校卒業生であつて、経済的理由により修学が困難である者に対し、学資の給付を行うことにより、社会に有為な人材を育成することを目的としております。

当初は創立90周年の平成24年度卒業生から開始する予定でしたが、1年でも早く実施したいとの同窓会役員会の意向から準備を進め、今年8月の総会で奨学金規定が承認を得て、現3年生から実施することになりました。(育英会奨学金規定は、当同窓会HPにアップしてありますので、ご覧下さい。)

奨学金は各年度卒業生1名に毎月2万円を4年間給付いたします。給付ですので、返還義務はございません。この奨学金制度が今後果たす役割は非常に大きいと確信しております。現在事務局では、申請書類等の準備を進めております。準備が整い次第、奨学生の募集を始めたいと思います。
なお、この奨学金の基金は目的に賛同する有志の方々の寄付金によって賄われます。奨学金制度を維持するためには、年

部活動結果一覧

文化部

Table with 2 columns: Department (e.g., 文芸部, 放送部) and Award/Result (e.g., 最優秀賞, 第1位).

体育部

Table with 2 columns: Department (e.g., 水泳部, 野球部) and Award/Result (e.g., 九州高校新人水泳選手権).

事務局からの連絡
創立90周年記念事業を平成24年11月17日(土)に実施します。現在実行委員会で検討中です。

間百万円の基金が必要となつてまいります。また、今後継続していくためには多額の基金が必要となつてまいります。そのため、事務局では奨学金の寄付を募っております。
寄付金は個人の場合一口5千円、法人の場合一口5万円とさせていただきます。何口でも結構でございます。本趣旨に対し何分の御配慮を賜り御寄付いただければ幸甚に存じます。是非皆様方の御協力をよろしくお願い申し上げます。
つきましては、本趣旨に御賛同いただけれます場合は、下記の指定口座に御送金をお願いいたします。

Bank information for 高鍋信用金庫 and ゆうちよ銀行, including account numbers and branch details.

関西支部総会報告

平成二十三年度の総会が七月二十三日に大阪みなみの道頓堀ホテルで開催されました。今回は、新しい顔ぶれとなった新会長の増田秀文様、校長の西立野康弘様、新事務局長の猪股司様をはじめとする御来賓十五名様のほか、他の支部からご参加いただいた六名様をふくめ総勢九十名での開催となりました。昨年の口蹄疫問題に続き、本年は東日本大震災をうけて何かと気がかりな様子となりましたが、何よりも被災地の復興を祈る開催となりました。

東京支部総会報告

東京支部の総会は、7月9日(土)、大手町のサンケイプラザホールで開催されました。高鍋の方からは、増田会長並びに西立野校長、猪股教諭に加え、前年度並びに、今年度のOB祭の実行委員の方達の参加があり、参加者総数は120名となりました。会長並びに校長先生の挨拶から、高鍋高校の文武両面での活躍に更なる飛躍を強く期待する一方、少子化の進む中で、学校



運営が厳しい環境に曝されている現状をお伺いしました。また、フォーラムとして、前広島国際大学国際交流センターの主任教授、小牟田康彦さん(S34年卒)から、「国際政治における英語の恐ろしさ、どんな誤訳が日本の運命を変えたか」という演題で、興味深いお話を拝聴しました。また、高鍋黒木本店様(焼酎)、川南甲斐製茶様(お茶)及び都農役場(ワイン)から、協賛の品々を多数頂きました。それらは、抽選会の景品として使わせて頂き、また、一部分は、来場のみなさんに賞味して頂きました。それらのお蔭で、会場は、懐かしい郷土の薫りに溢れ、会は大いに盛り上がり、最終の応援歌の斉唱で頂点を達しました。次回(来年)は、更にいい会にしたいという強い思いで幕を閉じました。あらためて、ご協賛頂いた企業と暑い最中にご臨席下さったご来賓の方達にお礼を申し上げます。次回も何卒よろしくお願致します。

平成二十三年度高鍋高校OB祭実行委員長 木之下 健太郎

本年度OB祭は、「奏(かなでる)〜みんなひとつ〜」をテーマに、昭和六十三年卒業生が企画運営を担当し、八月十二日・十三日の両日、無事に執り行うことができました。
昨年度から、口蹄疫・鳥インフルエンザ・新燃岳の噴火、そして、三月十一日に発生した東日本大震災と立て続けの大災害に苦悩の日々が続き、また、私たちが実行委員会として何か

場に設置した募金箱には、多額の義援金をいただきました。私たちは、今回のOB祭を通して、母校と鳴海ヶ丘会の伝統の重さ、それに関わる人と人との繋がり、それに温かさを強く感じる事ができました。この経験を後輩たちに伝え、鳴海ヶ丘会の更なる団結、そして母校や地域の発展のために努力してまいります。
最後に、これまでご支援・ご協力をいただきました皆様方から感謝申し上げます。新しい季節に移り変わる中で、どんな高鍋高校に変化していくのか、今年の高鍋ヶ丘祭での生徒たちの姿を見て楽しみにしております。

なんきんはぜ

高鍋高校を卒業して7年。今年度から高鍋高校に勤務させていただくことになり、早くも半年が経とうとしています。久しぶりの「鍋高」：今の風景、グラウンドから見える正門の音と元気な声、放課後の活気あるグラウンドと体育館の雰囲気、どれも懐かしい高校時代を思い出させてくれます。片道約一時間かかる毎日の自転車通学：夏は朝から日差しが強い上に蒸し暑く、突然の豪雨にびしょ濡れになりながら登校したこともありました。冬は凍てつく寒さと向かい風の中、立ちこぎをしながらの登下校。日々課題やテスト勉強に試合との両立に悩み、決して単純に「楽しい」とは言えない高校生活でした。しかし、ものすごく充実した高鍋生活三年間を過ごすことができました。その充実した時間を過ごすことができたのも、競技種目は違えど互いに目標を掲げて励みあっていた親友たち、時には馬鹿なことをやっていた友達、鳴海ヶ丘祭で「二致団結」の四字文字に全力を出した青団の仲間、そして優しくも厳しく目標を示してくれた恩師の先生方の存在があったからだと、今でもみんなに感謝しております。そんなみんなに出会うきっかけと、私に大きく成長する機会を与えてくれた高鍋高校。私が経験した以上の充実した鍋高生活三年間を、今の生徒には経験してほしいと思っております。

(内田 琢也)

OB祭を振り返って

OB祭実行委員事業推進局長 矢野 健児

今年のOB祭が無事終了したことを報告するとともに、ご支援くださいましたみなさまにお礼を申し上げます。

振り返ると、「ハードな一年だった。」というのが率直な感想です。昨年四月に準備委員会を立ち上げたものの、その二日後に口蹄疫が発生。私達の活動は中断し、先輩方が準備を進めてきたOB祭は、大幅縮小という苦渋の決断を余儀なくされました。口蹄疫終息後の九月に同窓会を開催し、実行委員長以下役員体制を確立、十月の引継式では先輩方の想いを受け継ぎ、決意を新たにしました。年明けの一月二日に昭和六十三年卒の大同窓会を開催し、「奏(かなでる)みんなひとつ」を平成二十

三年度OB祭のテーマに決定し、口蹄疫からの復興とOB祭の成功を全員で誓い合いました。それから数週間後、鳥インフルエンザ、新燃岳の噴火が宮崎県内にさらなる被害をもたらす中、三月十一日の東日本大震災。同窓生の安否を心配するとともに、OB祭開催の賛否を問う声が上がりました。その後の全体会議で東日本大震災からの復興を支援する内容を織り込むことと快諾。その後は、広告協賛活動、講演会のチケット販売など、同窓生が一丸となり計画を達成。

OB祭当日は、ゴルフ、講演会、大懇親会ともに晴天のうえ大盛況。二十四年ぶりに集まった最高の仲間と奏でたOB祭でした。

来年度に向けて

平成24年度OB祭実行委員長 野崎 正史



来年度のOB祭を担当します平成24年度卒業生を代表してご挨拶いたします。

昭和から平成へと新しい時代が変わって最初の卒業生が担当するOB祭です。今までの諸先輩方が築きあげられた伝統を守りつつも、何か新しい試みのあるOB祭を開催出来ればと考えております。

また、近年、県内でも口蹄疫、鳥インフルエンザ、新燃岳の噴火などの災害、国内でも東日本大震災、原発事故、台風、集中豪雨など、多くの災害に見舞われました。また、リーマンショックを引き金に、世界的な大不況に陥り、日本経済も危機的な状況に陥っている状況

私達同窓生も来年度に向けて活動を始めました。OB祭の実行委員を担当することは、一生に一度の機会です。この機会に、さらに同窓生の絆や友情を深め、すばらしいOB祭を開催できるよう、同窓生一丸となって、精一杯取り組んでまいります。しかし、まだまだ、右も左もわからない未熟な実行委員でございます。皆様からのご指導、ご鞭撻、ご協力など頂きたいと思っております。ぜひとも、よろしくお願いたします。

合唱コンクール

303 片岡 孝一郎

歌い終わり壇上から降りた瞬間、心からこのクラスで良かったと思えました。きつと思っても同じ気持ちだったと思います。他学年にもライバルが多く、優勝出来るか不安でしたが、クラス皆の団結の力で勝ち取ることが出来ました。これから私たち三学年は、いよいよ高校生活の仕上げの時期に差し掛かります。合唱コンクールを終え、より生徒間の繋がりを強くすることができました。学年一丸となって頑張っていきたいと思っております。



ファッションショーを終えて

307 黒木 加奈美

このファッションショーは私たちが生活情報科の授業で身につけた技術を発表する場です。今年、「GOGOサマー」というテーマのもと、服のデザインや演出から装飾などの細かいところまで力を入れたファッションショーに仕上げました。先生方にアドバイスを頂いて、夏休みの間も学校に来て準備を続けてきました。ファッションショーを成功させようと気持ちを一つに三年生も一年生も頑張っていたので成功することができて本当に嬉しかったです。この夏は一生の宝物となりました。ファッションショーで得た団結力を活かして

炸裂した青春

青団団長 306 前田 光紀

この体育大会は間違いなく、私の人生の中で最高の時間となりました。それは、決して個人のがんばりではなく、高鍋高校生全員で作り上げた、最高のものだったと思います。

もちろん、最初からうまくいったわけではなく、たくさん苦勞や悩みもあり、何度も、何度もやめたいと思いましたが、それでも、周りのリーダーや団員は、こんな団長についてきてくれました。本当に感謝しています。本番は、鍋高が一つになったのを感じた位、最高でした。赤団と黄団にも本当に感謝しています。

最高の鳴祭

赤団団長 305 中武 祐斗

今年の鳴海ヶ丘祭は自分にとって本当に思い出深いものとなった。体育の部では団長を務めさせて頂き、みんなの協力のおかげで応援賞を手にすることができた。前日は不安の方が大きくプレッシャーに押し潰されそうになったが、本番では誰よりも楽しむことができた。団で一つにまとまってきたからこそ応援賞が取れたのだと思う。赤団のみならず、本当にありがとうございました。

青春の証

黄団団長 302 谷山 直規

人生最後の体育大会を最高の思い出にすることができました。そんな体育大会を作り上げるのができたのも仲間の支えがあったからこそだったと思います。何一つ賞を取ることができませんでした。黄団のみならず、それ以上のものを得ることができ、大変よい経験をさせていただけました。この経験を糧に山あり谷ありの人生を進んでいきたいと思えます。センター試験まで残すところ100日を切りました。焦らずに一日一瞬一秒を大事にしていき、将来の夢に向かって、最後の一人が進路決定をするまでクラスみんなと切磋琢磨しあいながら笑顔で卒業できるように残り少ない時間をムダにしないように突っ走っていきます。

鳴海ヶ丘祭を終えて

生徒会長 河野華寿美

今年の鳴海ヶ丘祭は「一人一人が主人公で楽しいもの」を目指して企画・運営を行いました。人の上に立ちまよめることの大変さ、責任の重さなど裏側ではないとわからなかったことをたくさん学ぶことが出来ました。新しい企画を三つも立ち上げ、一から話し合い不安で一杯でしたが本番

でのみなさんの盛り上がりで大成功を取ることができました。本番の随所でたくさん笑顔を見ることができ、頑張ったよかったです。何度くじけても立ち上がる強さ仲間との絆などかけがえのない思い出ができました。今年の鳴海ヶ丘祭の成功は生徒全員の力・先生方・保護者・地域の方の支えなしにはなしえなかったことです。感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。



フォークダンス



吹奏楽部



NABEP (ナベップ: 職員 SMAP)



生活情報科食品バザー



サイエンス部



高鍋 GAMBARROWS (職員バンド)